



# やまざとの風

～心を込めた「あいさつ」「校歌」 輝く「笑顔」～

山里中学校だより

2025. 6. 6号

文責 小森

## 雨に育まれ、命を見つめる季節に



校舎の窓を打つ雨音に初夏の訪れを感じる季節となりました。来週はいよいよ梅雨入りも間近。天候が不安定な時期ではありますが、雨に濡れた紫陽花のように、どこか凛とした美しさとたくましさを感じる6月が、私はとても好きです。

明日から3日間、長崎市中学校総合体育大会が開催されます。各部活動では放課後の練習に熱が入り、グラウンドや体育館からは気迫あふれる声が響いています。3年生にとっては、これまでの努力の成果を発揮する大きな舞台でもあります。激励会での一人一人の顔には「悔いなく戦いたい」「仲間と最高の思い出をつくりたい」という強い想いが表れ、下級生もまたその姿を見て、自らの目標や努力の意味を重ねているようです。

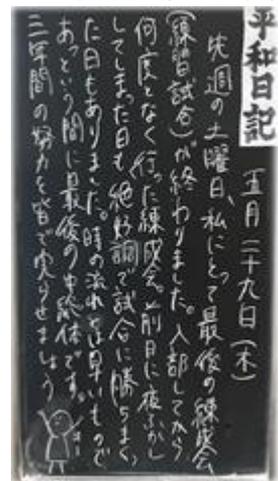


スポーツを通して学ぶものは、技術や勝敗だけではありません。仲間と協力すること、自分を律すること、困難な状況で諦めずに立ち向かう姿勢。こうした経験の一つ一つが、生徒たちの心を大きく育てていることを、日々の活動の中で実感しています。結果以上に、その過程を大切にしながら、全員が「やりきった」と胸を張れる中総体になることを願っています。

一方、6月は「命」について改めて考える月でもあります。長崎県では平成16年からのちを輝かせて生きる、心豊かな長崎っ子の育成を図ることを目的とした「長崎っ子の心を見つめる」教育週間を行っており、期間中は、本校においても授業や道徳の授業、講師を招いての講話など、多角的な視点から「いのち」について学びを深めます。命の大切さ、自己肯定感、他者との関わりについて学び直すことを目的としたもので、生徒たちの成長を見守る重要な機会となっています。

人は誰もが「かけがえのない存在」であり、決して一人で生きているわけではありません。互いを思いやる気持ち、相手の立場に立って考える力、困っている友だちに手を差し伸べる勇気。これらは学力と同じように、子どもたちに育てほしい大切な力です。梅雨の合間、生徒たちが「自分自身の命」、そして「人の命」の重みについてじっくりと向き合わせていきたいと考えています。

6月は、雨の多い季節ではありますが、その一滴一滴が大地を潤し、生命を育てるように、この時期の学びや経験が、生徒たちの未来をしっかりと支える礎となることを願っております。今後とも、本校の教育活動に温かなご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



学校ホームページの「学校行事【学校生活】」でも活動の様子を公開しております。

<https://www.nagasaki-city.ed.jp/yamazato-j>